リーディングDXスクール事業 【実践事例】

多度津町立多度津中学校（香川県）【指定校】

【取組内容】「子どもが主語となる授業づくり」が子どもの情報活用能力を育成する

取組の背景 子どもの現状を変えるべく、子どもが主語となる授業づくりを行った。その一つの手段として、単元内自由進度学習を利用した。授業を子どもに委ね、単なる知識の伝達の授業から、学び方を生徒が学ぶ授業へ転換していくと、結果的に情報活用能力を育成していることが分かった。特に、本事例は、情報活用能力のうち、子どもが考えをアウトプットする活動である「考えを表現すること」、「自己の学びを振り返ること」に重点を置いている。

子どもの現状

・自分から学習を進められない生徒が多い。
（指示待ち人間が多い）
・新しいことにチャレンジすることには慣れている。

授業形態の現状

・一斉授業で手厚く、生徒は負担なく学べる。
・授業での忙しさ（生徒＜教師）教師は忙しいのに生徒一人一人の学びを捉えられていない。

これでは、社会に出てからも自分から学び続けられる人材の育成にはならない、、、。

これからの時代に必要な「子どもの理想の姿」「理想の授業の姿」を改めて問い直す

子どもの理想の姿

自分から学習を進められる生徒（自分で学びを調整できる生徒）→ より良い学び方を身に付けて社会へ

理想の授業スタイル

・子どもが主語となる授業
・子どもの学び方が述語となり、子どもが最適解を選ぶ。

単元の学習を子どもに委ね、学びを自己調整しながら学び方を身に付ける授業スタイルへ転換

単元内自由進度学習の実践

すべての単元で実践し、生徒が主語となる授業とはどのような授業スタイルなのかを日々の授業で実践を継続

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

多度津町立多度津中学校（香川県）【指定校】

【取組内容】 「子どもが主語となる授業づくり」が子どもの情報活用能力を育成する

情報活用能力の観点から捉えた単元内自由進度学習の流れ（中3理科：８ケ月間）

課題の設定 → 情報の収集 → 整理・分析 → まとめ 発表 → 振り返り 改善

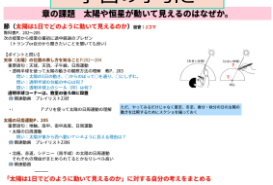
情報のインプット / 情報のアウトプット

次の学びへ

課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ 発表	振り返り 改善
原則、教科書をベースに学習の手引きに従い、学習を進める。	教科書、インターネットの情報、参考書等から収集	クラウドによる他者参照。学び合いによる学びを深める。	プレゼン資料をまとめ、発表し情報の共有を図る。	毎時間の授業の振り返り（学び方の振り返り）クラウド活用

振り返りを軸に教師が学びをコーチングし、次の学びにフィードバック

学習の手引き



基本は教科書から

生徒が考え、試行錯誤する

プレゼンによる情報共有

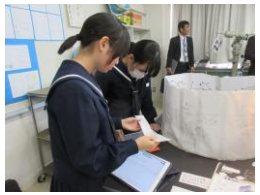
学び方をコーチング

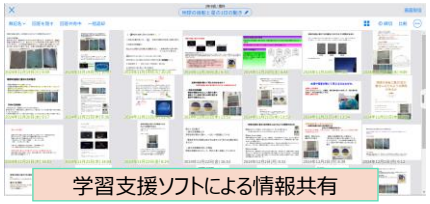
重視したポイント　情報のアウトプット「まとめ・発表」「振り返り」 自分を表現できる生徒の育成

重視したポイント　自分を表現できる生徒の育成のために情報のアウトプット「まとめ・発表」「振り返り」を重視

まとめ 発表

単元の節ごとにプレゼン資料を作成し、授業の初めに発表する。生徒のプレゼンテーション力を育成する機会を意図的に作る。





学習支援ソフトによる情報共有

振り返り 改善

授業ごとに生徒は、自分の学び方を振り返る。教師は、授業中の生徒を見取り、振り返りに対して学び方をコーチングする。

Googleのスプレッドシートによる生徒一人一人の学習進度と振り返りは、常に学級全体に共有している。

2	11／15	②	
計画 / 実際	実際、自分の学びはどうだった？	教科担任からコメント	文字数
地球の方位…	今回は、カードを作るよりも教科書を読むことに集中して、地球の方位や自転について知ることができた。次回は、カードにまとめるところからはじめたい。	集中、いい言葉ですね。方位と時刻についてはホワイトボードのモデル図を使うと大きくてより分かりやすいですよ。	71
地球の方位…			